

日本政府に核兵器禁止条約批准を求める署名活動をする箕牧智之さん(左)と佐久間邦彦さん。22日、広島市の平和記念公園



核兵器禁止条約 被爆者 7

米ニアロークで開かれた核兵器禁止条約の第2回締約国会議(27日~12月1日)に合わせ、被爆者や高校生平和大使、広島と長崎の同市長らが渡来する。会議で被爆の実相を伝え、非政府組織(NGO)などのイベントに参加。核保有国や日本政府が条約に賛同を高まる中、改めて核兵器は「絶対悪」として廃絶の必要性を訴える。

日本原水爆被爆者団体協議会(被爆協)は、広島県

カナダ在住の被爆者サローニー・スミス(91)を現地に招く計画もある。

核禁止へ被爆者ら渡米

27日からNY 締約国会議で訴え

原爆被爆者団体協議会(県被爆協)理事長も務める箕牧智之代表(81)と、木戸季市事務局長(83)=岐阜市=の2人を派遣。長崎で被爆した米内さん、会議初日の討論に参加予定で「核兵器と人類は共存できない。自分の経験を時間の許す限り、伝えたい」と意気込む。

原水爆禁止日本協議会(原水協)などは、もう一つの長崎県被爆協の佐久間邦彦理事長(79)と、愛知県原水爆被災者の金本弘理事長(79)ら被爆者2人を含む約30人が現地へ。佐久間さんは「『黒い闇』による被爆を語り、内部被ばくした人と一緒に行動する」と語る。

会議に先立つ、米国の3都巿を巡って市民と交流した長崎県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長(80)も会流する。条約参加国と核保有国などとの間に分断が起きていると指摘。各政府は「被爆者の声を聞き、両陣営が一緒になるように知恵を働かせよ」と訴えたい」と語る。

大使2人と元大使の大学生3人のほか、学生団体「KNOW NUKE」(TOKYO (ノーカンクス・トーキョー))のメ

ンバーら若者も足を運び、現地でイベントを開く核兵器廃絶国際キャンペーンに意願を語った。

(ICAN) の長崎国際連絡委員(54)は、「被爆は『核はダメだ』というメッセージを出す唯一の場だ」と意願を語った。

11/24 玄関

I-CAN新事務局長 広島・長崎を訪問へ

来年1月、初訪日



今年の1月の
事務局長就

【パーカー共回】国際非政府組織（NGO）の核兵器廃絶国際キャンペーン（I-CAN）のメリッサ・パーク事務局長=写真は、I-CAN提供=が来年1月に広島と長崎、東京を訪問するが22日分かった。関

仕合 初の訪日となる。
パーク氏は核兵器禁止条約の発効から3年ひとつの来年に約1週間滞在する。日本

日本の団体も参加する。I-CANは核兵器を初めて全面的に違法化した核兵器禁止条約の採択を主導し、2017年のヘルベルト・クルツ大統領選で敗れた。パーク氏はオーバートウリックの元政治家で、環境を務めた経験もあり。

す。条約に加盟してこない日本に締約国会議へのオブザーバー参加を訴えられみられる。

す。条約に加盟してこない日本に締約国会議へのオブザーバー参加を訴えられみられる。